

ストリートチルドレン問題解決の難しさ

3年2組18番 田島 匠悟

1. はじめに

今現在、地球上ではさまざまな社会問題が発生しており、日々、人々の頭を悩ませている。人間の環境破壊によって生みだされる地球温暖化や液状化現象などは誰しもが耳にしたことがあるだろう。そしてもう一つ、世界で話題になっている問題がある。それはストリートチルドレン問題、路上でくらさざるを得ない子どもたちのことである。私が彼らを知ったのはとあるアニメーション作品を見たことに起因する。その作品では少年兵が売買されたり、戦場で本人の意思に関係なく戦わされるという凄惨極まる描写があり、それが本当に世界で起こっていることなのかをインターネットで調べる内にストリートチルドレンという存在を知ったのがきっかけだった。私は少年兵やストリートチルドレンの問題を知ってこんなことが世界にあっていいことなのか、彼らにはもっと平和でふさわしい仕事や生活があるのではないかと疑問に思い、自らの論文の研究テーマにすることを決めた。

彼らが発生する要因は数えきれないほどあり、それらを解決することは非常に困難を極めるだろう。だが、私はこの問題を将来必ず解決しなければならないと考えている。問題が知らなかったり無関心な人でもこの論文を読んでストリートチルドレン問題を知り、自分がどうすればいいのか考えてくれれば幸いである。以下、私が調査したストリートチルドレンの情報や問題点、どうすれば改善できるかを綴っていこうと思う。

2. 序論

ストリートチルドレンとは

ストリートチルドレンとは世界中に存在する路上で暮らしていてかつ適切な保護を受けられていない18歳までの子どもたちの総称である。*1 USAID(アメリカ合衆国国際開発庁)によると彼らは大きく分けて4つのタイプにカテゴライズでき、それぞれ .1 家がなく、家族からの支援もない子どもたち、.2 定期的に家に帰るが、ほとんどの時間を路上で過ごす子どもたち、.3 家族自体がホームレスで、家族とともに路上で生活している子どもたち、.4 保護されているが、路上生活に舞い戻る可能性のある子どもたちである。彼らは世界中各地に存在しており、アジアやアフリカ、ラテンアメリカなどの発展途上国で多く見られる。*2 ストリートチルドレンといっても、その全てが家や親を失っているわけではなく、ただ、金を稼ぐために道ばたに出てくる子供も数多く存在する。また、マニラやカルカッタなどアジアの大都市にも多く存在するが、より問題の表面化が顕著なのは、メキシコ、サンパウロ、リオ・デ・ジャネイロなど中南米の諸都市である。アジアの儒教の影響を受けているような国では比較的家族の結びつきが強いのに対して、中南米ではキリスト教の影響から「個人」がより強く尊重されるため家族の崩壊がアジアより起きやすくなっているからだと考えられている。*3 彼らの人口は世界中で1億人とも1億5000万人とも言われており、正確な数値は出されていない。これは今世界各地でストリートチルドレンの数が爆発的に増えていること

や家族中が路傍で暮らしていたりもするためストリートチルドレンとしての問題把握が難しく明確に区別することができないことなどが起因していると考えられる。

ストリートチルドレンの発生原因

ストリートチルドレンが発生する理由は様々であり、大きく2つの要因に分けられる。一つ目は外的要因である。自然災害や紛争に巻き込まれ、元あった家族などを失ってしまったケースだ。二つ目は内的要因と言い、家族関係がうまくいかず家を出ていってしまったり親が蒸発した、もしくは親の稼ぎだけでは兄弟をはじめとする家族を養っていけなくなったケースのことを指す。内的要因の場合、保護者との関係がうまくいかず出ていった子が家庭を持つも、その子供との付き合い形が分からずネグレクトしてしまうということも頻発しており、悪循環に陥ってしまうことが多々ある。

ストリートチルドレンの収入源

彼らの収入源は主に物売りか物乞い、または売春である。仕事はタクシーの呼び込みや衣類の制作・販売など子供にもある程度できるものが揃っている。しかし、その他のものには銅山といった劣悪な労働環境で働かされるものが多くあり、ほとんどの仕事は当然給料が安く、一日の生活費を何とか賄える程度の金額でしかない。その結果、一切働こうとせずに観光客などに物品や金をせびる物乞いとなってしまう危険性がある。物乞いの収入は1日でおよそ数百円から千円程度であり日によっては物売りよりも高い成果をあげる可能性があるが、物乞いを続けてしまうと物を得る手段が他人に依存してしまい、大人になってもそのまま物乞いをし続けてしまったりスリに手を染めてしまうリスクが高い。売春もまた仕事をする能力を持たずに成長してしまい、同様にスリに手を染めるケースが多い。

ストリートチルドレンの問題

ストリートチルドレンの問題としてよくあげられるのは薬物問題である。彼らは生きるために日々過酷な環境で働くことを強いられている。そうして目の前の苦しみから逃れようと麻薬や他のドラッグに手を染めてしまう。また、違法薬物は人を中毒状態にし、ドラッグを再度使わせようとしてくる。そうしたことは麻薬の売人に大きな利益をもたらし、活動地域の拡大という結果を残しかねない。また、子供間で薬物を摂取するための注射器を交代してまわすことによりHIVの感染拡大も広がってしまう。

しかし、彼らにとっての一番の問題は心身ともに健康に育つことができない点にあるだろう。前述した通り、ストリートチルドレンには自力で食べ物を入手する能力がない者も多く、彼らの健康状態は非常に不安定なものである。そして目の前の苦しみから逃れようと麻薬に手を染めてしまうことが起こってしまう。その結果からだがボロボロになってしまうのだ。

そして、彼らは精神面でも大きな不安を抱えている。というのは、親などの子どもを適切に保護し温かい愛情を与えてくれる大人を持たない子供が多いからである。それどころか、

本来人を守るはずの警察に保護すべき対象として見られるのではなく逮捕すべき対象として見られている。そのため、子どもたちはただ通りで生活しているというだけの理由で警察に逮捕されたり暴行を受けてしまう。これではストリートチルドレンが大人と信頼関係を築くことは到底できやしない。大人との関係だけでなく子どもたち同士でも、都市の生活は流動的なので、持続的な人間関係を育てることは難しくなってしまう。こうして子どもたちは精神的な発達も阻害されてしまうのである。

ストリートチルドレンの勉強への関心

ストリートチルドレンの子供たちは日々お金を稼ぐために仕事に追われており、勉強のことに関心を持っていないように思われるかもしれないが、それは違う。彼らはちゃんと労働以外のことにも興味があり、学びたいと思っている。実際、勉学に励めばそれを仕事に反映し、より給料が高く安全な職に自然とつくことができるだろう。しかし、それを叶えることができるのはほんの一握りの子供たちだけであるというのが現実である。その原因として一番に上がるのは貧困である。日本ではあまり意識することはないだろうが海外の発展途上国では義務教育なんてものがあることはほとんどなく、学校に行くのにもお金がかかる。その額は安くなく、一度学校に入ったとしても費用が払えずに辞めてしまうことも少なくない。また、ストリートチルドレンの子供たちもお金のために仕事や労働に追われ、学校に行く時間がないというのも一つの原因である。ストリートチルドレンにとっての最大の敵は貧困なのだ。

3. 本論

ストリートチルドレンに勉強の興味を持ってもらうために

私は初め、より多くのストリートチルドレンに外の世界のものに興味を持ってもらおうと思っていた。というのも、ストリートチルドレンには世界のものについての知識がほとんどなく、興味を持たずに仕事に明け暮れることしかできないと思っていたからだ。そこで、子供たちに日本の持ち主がなくなったおもちゃをプレゼントしようと考えた。というのも、ストリートチルドレンが外の世界に興味を持っていないのは知る機会がないからであり、外からその機会を与えることができれば彼らに興味を示し振り向いてくれると考えたからだ。しかし、この考えはすぐに取りやめざるをえなくなった。見落としていた大きな穴があったためである。私はとある話をインターネットの記事で見つけたのだが、その内容はユニセフなどの保護団体がストリートチルドレンを初めとする貧困にあえぐ子供たちに餓死防止のためにビスケットを配るというものだった。だが、このビスケットはそのままの状態では配られるのではなく、少し砕かれた状態で配られるのである。というのも、そのままの状態ではストリートチルドレンに配ってしまうと彼らはお金を得るために売ってしまうのである。たかがビスケット1枚がお金に変えられるというならば、当然おもちゃはより高値で売られてしまうのである。彼らは極度の貧困の中におり、その中で未来のことを考える余裕などないのだ。彼らは今を生き抜こうと必死にあがっているのである。

私は考えを改める必要があった。そして私は前の考察の結論を踏まえて今一度

ストリートチルドレンの「今」の現状をどう変革していけばいいのかというしっかりとしたイメージを立てることに決めたのである。

ストリートチルドレンが「今」を生きるにはどうすればいいのか

私はストリートチルドレンの子供たちがどうすればこれまでより幸せに生きていけるのかを考えた。そうして出た結論が「食べ物に困らず安心な暮らしを築くこと」だとであった。マズローの欲求5段階説というアメリカの心理学者アブラハム・マズローが提唱した人間の欲求を5段階にわけて説明したものによると、何事よりも人間が優先するのは食事や睡眠といった人間が生きていくための本能的な欲求であるという。私はストリートチルドレンの子供たちがこの条件すらも満たせていないと判断してこのイメージを立てたのだ。

そして、このイメージを実現させるための手段としてストリートチルドレンの子供たちに彼らが住む地域に合わせた野菜農作物を現地で生産できるようにすればいいのではないかと考えた。子供自身が農作物を育て栽培する術を身につけたならば、安全な食糧を調達できないという問題が解決できるだけでなく、子供たちに物を作るスキルを教えることにより彼らの将来の選択肢を広げることができる。これらは貧困に困っている子供たちの今を支え安定した生活につないでいけると考えられる。

しかしこれには3つの大きな問題点が存在している。1つ目が一部地域では生産できる農作物がほとんどないということである。例えば、アフリカのサハラ砂漠周辺の町にもストリートチルドレンが数多く暮らしているのだが、砂漠ではその土壌や気温の高さによって農作物を育てることがほとんど不可能なのである。これではストリートチルドレンに十分な量の食料を供給することができない。2つ目が数多くの地域では農作物を育てるのに必要な水を用意できないことである。今現在、世界で衛生的な水を常に持つてくることのできる国は非常に限られており、農作物を作ったとしてもそれが安全であるとは言えないのである。3つ目が、そもそも農作物の育て方を教えることができる人間がほとんどいないのである。ストリートチルドレンは世界中様々な国に存在しており、それらの言語はマイナーなものも多い。それだけでなく子供に教えるとなるとなると人材を見つけるのは難しい。

これらの理由によりストリートチルドレンの子供たちに農作物の育て方を教え、実践させるのは難しいと言える。

4. 結論

これまでの説明を読んでわかってくれたと思うが、この問題は解決困難な問題が数多く存在しており解決は難しいだろう。それでも、この問題はあってはならないことなので、私は問題解決のために常にこの問題を念頭に置き考えることにする。

5. おわりに

正直に言えば、私たちが直接彼らの力になることはできない。しかし、何もできないからと目をむき顔を背けてしまっても何も解決しない。問題を解決できないとしても私たちはこの問題を認識し、人々に将来解決しなければならないことであることを伝えていかなければ

ばならない。重要なのは私たちが何をできるかをまず考えるという問題解決のための一歩を踏み出すことである。

6. 参考文献・出典

*1 USAID Save The Children

タイトル: Save the children

公開時: 2009年、5月

*2 Consortium for Street Children

*3 Spaceship Earth

タイトル: ストリートチルドレンとは？原因や現状の問題、取り組み事例、私たちにできること

公開時: 2022、11月

<https://spaceshipearth.jp/streetchildren/>